



ほんとうの「考える力」とは何だろう？

Think & Think

考える力

ほんとうの「考える力」とは何だろう？

教育、ビジネス、研究の分野で活躍する3人の方々が、独自のキーワードで、“ほんとうの「考える力」”を語ります。

BRAIN 01

文脈力と段取り力 道筋を分解する力と順番に並べ替える力

齋藤 孝 さいとう・たかし / 明治大学文学部教授

1960年、静岡県生まれ。東京大学法学部卒業。東京大学大学院教育学研究科学校教育学専攻博士課程等を経て現職。

専門は教育学、身体論、コミュニケーション技法。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」企画・監修。

『声に出して読みたい日本語』（草思社）、『段取り力』（筑摩書房）、『「頭がいい」とは、文脈力である。』（角川書店）ほか著書多数。

[本文はこちらから](#) ▶▶



BRAIN 02

コミュニケーション力 相手の要求を理解し、働きかけ、動かす力

松本 大 まつもと・おおき / マネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社 代表取締役社長CEO

1963年生まれ。東京大学法学部を卒業後、ソロモン・ブラザース・アジア証券会社に入社。90年に、ゴールドマン・サックス証券に移る。99年、マネックス証券株式会社代表取締役社長就任。2004年、マネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社設立に伴い、同社代表取締役社長CEOに就任。主著に『真鍋かをりと松本大のいちばんやさしい株のはなし』（日本経済新聞社）、『週末株トレードでガッチリ稼ぐ』（宝島社）。

[本文はこちらから](#) ▶▶



総合力 スキルをうまく働かせて 未知の問題を解決する力

石浦章一 いしうら・しょういち / 東京大学大学院総合文化研究科教授

1950年、石川県生まれ。東京大学理学系大学院修了後、国立精神・神経センター神経研究所、東京大学分子細胞生物学研究所を経て、現職。理学博士。専門は分子認知科学。知能、性格、感情の分子レベルでの解明を目指し、アルツハイマー病などの治療の研究を行っている。近著に『遺伝子が明かす脳と心のからくり』（羊土社）、『東大教授の通信簿 - 「授業評価」で見てきた東京大学』（平凡社新書）。



本文はこちらから ▶▶

通信教育の資料をご請求いただいた方に学年に合わせた勉強に役立つ小冊子をさしあげます (広告主提供)



小学1・2年生コース
『子どもを伸ばす7つのおはなし』
「子どもの心を育むおはなし」など、学力に限らず教育全般のアドバイスを齋藤孝氏をはじめとした教育者からのインタビューで構成。



小学3～6年生コース
『小学生を勉強好きにする7つの方法』
育児や保育を研究対象としている東京大学大学院教育研究科・教育学部の汐見稔幸教授が、学びに興味を持たせる方法などに答える。



中学コース
『子どものやる気を引き出す15のヒント』
中学生になると自発的に勉強に取り組む姿勢が大切。子どもにとって重要な役割を担う家庭学習のあり方を15のヒントを通じて考えていく。



高校コース
『Z会だけが知っている! 大学ナマ事情』
東京大学・京都大学などに合格したZ会の先輩たちから寄せられた、キャンパス案内や入学前のイメージと現実の違いなど生きた大学情報を掲載。

資料請求はこちら ▶▶

※広告主の資料請求申込みページへリンクします。

[このページのトップに戻る](#)

[asahi.comトップ](#) | [社会](#) | [スポーツ](#) | [ビジネス](#) | [暮らし](#) | [政治](#) | [国際](#) | [文化・芸能](#) | [ENGLISH](#) | [マイタウン](#)

ニュースの詳細は朝日新聞紙面で。▶ [インターネットで購読申し込み](#)

asahi.comに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
| [朝日新聞社から](#) | [サイトポリシー](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [リンク](#) | [広告掲載](#) | [お問い合わせ](#)・[ヘルプ](#) |

Copyright 2005 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

BRAIN 01

文脈力と段取り力 道筋を分解する力と
順番に並べ替える力

齋藤 孝



勉強は何のためにするのでしょうか。その答えは二つあります。一つは、知的な文化遺産を継承するため。人々が勉強をしなくなれば、文化の水準は退化してしまうんです。もう一つは、勉強して頭を良くするためなんです。これは見落とされていることなんですけど、頭がいいから勉強ができるんじゃなくて、勉強すると頭が良くなるんです。勉強は運動とよく似ています。もちろんももとの運動神経に多少の差はあるかもしれませんが、運動部に入らなかった運動神経のいい子どもより、運動部に入ってずっと運動を続けてきた子どもの方が、結局は運動ができるようになるんです。社会に出た時、特にビジネスにおいて、この頭の良さというものは不可欠なものです。だから、勉強することは必要なことです。

小学校時代に良い癖をつければその後どんどん伸びていく

昨今、学力の低下が取りざたされていますが、それは習熟を嫌うようになってしまったことに原因があります。習熟とは、声に出して読むとか計算ドリルをやるといった昭和時代の小学校で行われていた訓練の要素ですね。熟達するために習う要素というのは小学校で鍛えられていたんです。小学生の時に付いた癖はなかなかとれません。逆にいうと、いい癖をつければどんどん伸びていく。どんな知的な活動でも、基本的には習熟の要素が必要。中学校に入ると勉強がどんどん難しくなりますから、習熟の習慣が身につけていないと、いよいよ授業についていけなくなるわけです。

学ぶことの喜びは、感動と習熟の二つで成り立っていると思うんです。遺伝子が発見されたことに感動するとか、太宰治の作品に感動するとか、本来、そういったものの集積が教科書であるはずなんです。もう一つは、できるようになったという喜びです。それは習熟の喜びです。

小学生の時期というのは「学ぶことは面白いんだ」ということを学ぶ時期なんです。今の子どもは学ぶことを面白いと思っていないから、学ぶ意欲がわかないんです。

小学生に必要なとされる考える力の一つは、「文脈力」です。僕は、これこそ頭の良さそのものだと思っているんです。これは、意味と意味を正しくつなぐことができるということですね。この文脈力をいろんな教科を通じて鍛えているわけですが、国語はそのものズバリなんです。現代国語は非常に重要なもので、高校入試やセンター試験の現代国語の問題が解ける力は、生きていく上で必須の力なんです。

算数・数学でも文脈力は鍛えられます。数学の問題は、式と式をどうつなげていくか、条件をどれだけ使って最後の結論に持っていかかといったものですが、その際、必要のない条件はありません。条件を全部使って、どういう順番でどこに向けて作っていくか。これは料理に似たところがあります。材料があって、最終目標のところに完成のビジョンがある。それらをつなぐ作業とよく似ています。自分は今、何のために、何をやっていて、そのためには何が必要かということを確認に説明できる力を鍛えるには、むしろ国語以上に数学を日本語で説明することの方が、有効です。

もう一つ勉強に必要な力として「段取り力」というものがあります。例えば書く作業をする場合、ほとんどの子どもは考えもせずに、いきなり書き始めます。そうではなくて、文章のテーマになるもの、材料になるものを一度頭からすべて出して、全体の展開をよく考えてから、書き始めるものなんです。これは段取りなんです。材料を全部出しておいて、それを配列し直すということですね。この段取り力は、実は勉強の隠れたメインキャラクターなんです。

先日、OECD（経済協力開発機構）による国際学習到達度調査の結果が発表されましたが、日本の子どもは論述に弱いという結果が出ました。記述式・論述式の問題に弱いということは、考える力がない証拠です。書くということは、その前に頭の中で書き言葉で話せるようにしないとイケない。だから語彙を豊富に持っていなければいけないんです。

良質な問題をたくさん解くことで考える力は確実に鍛えられる

考える力を身につけるには、問題をたくさん解くことです。問題を解く量が少ないということは、野球に例えると一日に十球しか打たないのに、甲子園に出場しようとしているようなものです。問題をたくさん解くと頭の感覚が磨かれるんです。今の小学校では、授業中に問題を解く量が少なすぎるんです。5問、10問解いただけでは変わらない実力も、100問、200問解けば、かなり瞬間的に答えが分かるようになってきて、余裕が出てくるんです。

解く問題の質ももちろん重要です。東京大学の国語、社会、数学などの問題を解いた時「こういう問題を作るのは大変だろうな」と思いました。要するにいい問題なんです。いい問題に出会うと、解けなくても「これで負けたら仕方ない」という感じでスッキリするんですね。

勉強は、努力を重ねれば何とかなるものです。ゆっくり時間をかけてでも、たくさん問題を解けば能力は上がっていく。努力が評価されるフェアなチャンスなんです。実は、勉強ほど公平なものって、ほかにはないんですよ。

(談)

通信教育の資料をご請求いただいた方に学年に合わせた勉強に役立つ小冊子をさしあげます (広告主提供)



小学1・2年生コース
『子どもを伸ばす7つのおはなし』
「子どもの心を育むおはなし」など、学力に限らず教育全般のアドバイスを齋藤孝氏をはじめとした教育者からのインタビューで構成。



小学3～6年生コース
『小学生を勉強好きにする7つの方法』
育児や保育を研究対象としている東京大学大学院教育研究科・教育学部の汐見稔幸教授が、学びに興味を持たせる方法などに答える。



中学コース
『子どものやる気を引き出す15のヒント』
中学生になると自発的に勉強に取り組む姿勢が大切。子どもにとって重要な役割を担う家庭学習のあり方を15のヒントを通じて考えていく。



高校コース
『Z会だけが知っている! 大学ナマ事情』
東京大学・京都大学などに合格したZ会の先輩たちから寄せられた、キャンパス案内や入学前のイメージと現実の違いなど生きた大学情報を掲載。

資料請求はこちら▶▶

※広告主の資料請求申込みページへリンクします。

[このページのトップに戻る](#)

[asahi.comトップ](#) | [社会](#) | [スポーツ](#) | [ビジネス](#) | [暮らし](#) | [政治](#) | [国際](#) | [文化・芸能](#) | [ENGLISH](#) | [マイタウン](#)

ニュースの詳細は朝日新聞紙面で。▶[インターネットで購読申し込み](#)

asahi.comに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
| [朝日新聞社から](#) | [サイトポリシー](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [リンク](#) | [広告掲載](#) | [お問い合わせ](#)・[ヘルプ](#)

社会 スポーツ ビジネス 暮らし 政治 国際 文化・芸能 ENGLISH マイタウン

天気 | 住まい | 就職・転職 | BOOK | 健康 | 愛車 | 教育 | サイエンス | デジタル | トラベル | 囲碁・将棋 | 社説・コラム | ショッピング | be

広告特集

[asahi.comトップ](#) > Z会

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局



ほんとうの「考える力」とは何だろう？

Think & Think
考える 力

◀ TOPページへ戻る

BRAIN 01 ▶

BRAIN 03 ▶

BRAIN 02

コミュニケーション力 相手の要求を理解し、働きかけ、動かす力

松本 大



社会に出てから求められる力の一つとして、資格や能力といった自分の中にあるネタの多さが考えられます。自分の中に、知識や能力をより多く持たなければいけないという考え方ですね。確かにそれも大切でしょう。しかしそれよりも、自分のネタをうまく社会が望むようなかたちで出力し、さらに働きかけた相手にしっかりと影響を与えて、行動を喚起することの方が大切なんじゃないかと私は思うんです。それこそ、コミュニケーションの力ではないでしょうか。

社員を採用する際も、重視するのはコミュニケーション能力です。以前、外資系の証券会社に所属していたときに、マーケットで株や債券を売買するディーラーやトレーダーという職種の人間を数多く育てたんです。彼らの採用の基準は何ですか、数学ができる人ですか、といったことをよく聞かれました。基準は、数学力ではありません。やはりコミュニケーションができるかどうかなんです。

株や債券を売り買いするということは、マーケットが発するいろいろなサインを感じて理解し、それに対して行動を起こすということです。この過程はコミュニケーションそのもの。中には、こういうことを言うトレーダーがいるんです。上がると思って買ったものが、下がってしまったときに「自分は間違っていない。マーケットが間違っている」と。しかし、これは違います。マーケットは常に正しいんです。

自分が何を思っているかということより、マーケットの状況がどうなっているかを知ることの方が、はるかに重要。ものを売るときにも、企画を考えるときにも、さらに社会に出る前であればテストの問題を解くときにも、常に自分が対峙している相手が何を求めているのかを理解することが大切なんです。

コミュニケーション能力が高いということは、単に会話が上手だという意味ではありません。相手の欲していることを理解したら、次は自分が何を言うかを考えて、最終的に相手を動かさなければいけません。そこまでいって初めてコミュニケーションが図られたということになります。

自分の中に優れた考えがあっても出力できなければ無用の長物

22歳の夏休みに初めて一人で海外旅行をしました。ボストンにタフツという大学があるんですが、その寮に泊まったんです。私

のほかには、世界中から同年代の人たちがサマープログラムで集まっていた。彼らは英語が母国語ではありませんが、英語を話すことができます。私はできなかった。コミュニケーションを図ろうとするのですが、全然通じない。しまいには相手にされなくなり、本当につらかったんです。

その旅行が一つのきっかけとなって、英語を身につけたいと思い、外資系の会社に就職しました。就職してから6、7年たった頃の話です。だいぶ英語が話せるようになっていたものの、表現できるのは自分が考えていることの6、7割と感じていました。ところが、話をする相手は「君の言うことは100%理解できる」「君は英語が上手だ」と言う。つまり、その6、7割を彼らは私の10割だと思っているわけです。

どんなに自分の中にいろいろな考えがあっても、自分の考えを相手の聞きたいかたちで出力することができなかつたら、その考えは無用の長物です。その人の社会におけるかたちや大きさというのは、「持っているもの（能力）×相手への伝達率」で決まてきます。どんなにいいエンジンを積んでいても、タイヤがボロボロだったら車は走りません。エンジンの力を、いかに路面に伝えるかが大事です。

能力は、人によって大きな差はないと思います。差があるのは伝達率。では、その伝達率を上げるにはどうすればいいか。私を例にとると、自分のアイデアを英語で完璧に説明することができない、という状態が何年も続いた。満たされてしまっていたら、向上心を強く持つことはなかったと思うんです。自分の考えていることと実際の間ギャップがあるから、それを埋めようとする作用が働く。そのギャップを強く自覚することが、非常に大切です。そうすれば、自然に努力していく。僕のコミュニケーション能力や伝達率が、もし高くなったとしたら、そう自覚してきたからだと思います。

コミュニケーション力と伝達率は勉強やテストの場面でも重要

勉強やテストのことを考えてみても、やはりコミュニケーション能力と伝達率が大切です。例えば、テストの場合、問題が何を求めているのかを理解し、それに対して自分の持っているものをきちんと出力すること。これは、コミュニケーション能力の一つといえるのではないのでしょうか。

数学や物理の問題は、順番を間違えたら解けません。その順番を考えることも、コミュニケーションと似たところがあります。こういった順序で自分が持っているものを相手に提示し、どう相手に影響を与えるかというところが似通っています。

国語の読解問題や記述式の問題も、求められていることを理解し、正しく出力することという意味で同様です。

また、実際に勉強したことをテストで発揮することは、能力と伝達率の関係といえるでしょう。

学生時代、私は勉強する意味について思い悩むことはありませんでした。とにかく目の前にあるものをやらないと先には進めませんから。停滞しては、自分の位置はつかめない。動くことによって初めて自分に足りないものが見えてくるんです。結局、勉強をなささい、ということですかね。

(談)

通信教育の資料をご請求いただいた方に学年に合わせた勉強に役立つ小冊子をさしあげます (広告主提供)



小学1・2年生コース

『子どもを伸ばす7つのおはなし』

「子どもの心を育むおはなし」など、学力に限らず教育全般のアドバイスを齋藤孝氏をはじめとした教育者からのインタビューで構成。



小学3～6年生コース

『小学生を勉強好きにする7つの方法』

育児や保育を研究対象としている東京大学大学院教育研究科・教育学部の汐見稔幸教授が、学びに興味を持たせる方法などに答える。



中学コース

『子どものやる気を引き出す15のヒント』

中学生になると自発的に勉強に取り組む姿勢が大切。子どもにとって重要な役割を担う家庭学習のあり方を15のヒントを通じて考えていく。



高校コース

『Z会だけが知っている! 大学ナマ事情』

東京大学・京都大学などに合格したZ会の先輩たちから寄せられた、キャンパス案内や入学前のイメージと現実の違いなど生きた大学情報を掲載。



資料請求はこちら▶▶

※広告主の資料請求申込みページへリンクします。

[このページのトップに戻る](#)

[asahi.comトップ](#) | [社会](#) | [スポーツ](#) | [ビジネス](#) | [暮らし](#) | [政治](#) | [国際](#) | [文化・芸能](#) | [ENGLISH](#) | [マイタウン](#)

ニュースの詳細は朝日新聞紙面で。▶ [インターネットで購読申し込み](#)

asahi.comに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
| [朝日新聞社から](#) | [サイトポリシー](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [リンク](#) | [広告掲載](#) | [お問い合わせ・ヘルプ](#) |

Copyright 2005 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

社会 スポーツ ビジネス 暮らし 政治 国際 文化・芸能 ENGLISH マイタウン

天気 | 住まい | 就職・転職 | BOOK | 健康 | 愛車 | 教育 | サイエンス | デジタル | トラベル | 囲碁・将棋 | 社説・コラム | ショッピング | be

広告特集

[asahi.comトップ](#) > Z会

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

Z-KAI

ほんとうの「考える力」とは何だろう？

Think & Think
考える 力

◀ TOPページへ戻る

BRAIN 01 ▶

BRAIN 02 ▶

BRAIN 03

総合力 スキルをうまく働かせて
未知の問題を解決する力

石浦章一



勉強すると頭がよくなるということは、fMRI（機能的磁気共鳴画像診断装置）で脳を調べることで分かります。fMRIでは、脳の使われている部分が光って表示される。例えば計算が速い人の脳を調べると面白い現象が見られます。計算をすると普通は脳のいろいろな場所が光ります。ところが、計算が速い人はあまり光らない。どうも脳を効率よく使っているようなんです。新しいことを覚えると、脳の中に回路ができる。その回路を何度も使うと、ほんのちょっとのエネルギーで回路が働くようになります。従ってたくさん計算しても、あまり負担がかからず、頭が疲れなわけです。頭が疲れなければ長い時間、多くの量の勉強をすることができる。これが勉強の効果だと思います。だから自分の頭というのは変えることができるわけです。だったら一生懸命使った方が得に決まっていますね。

考える力には2種類あります。一つはスキルです。スキルとは、計算や読み書きなどの技術です。もう一つはその人の総合力というべき力です。総合力とは、スキルを上手に働かせて、初めて出会う問題や想定していなかった問題を解決する力です。

総合力を身につけるために最初に必要なもの、それはスキルです。では、どんなスキルが必要なのでしょう。計算なのか、読み書きなのか、それとも世界情勢を知っているということなのか。それはまだ分かっていません。ただ経験的にいうと、幅広い知識や能力を持っている人の方が、総合力が高いことは確かなようです。勉強しかしてこなかった学生は、何か新しい問題と出会ったときに対応できない。「どうやって調べたらいいかわかりません」といって、やって来ます。大学に入るといろいろな問題に遭遇し、自分で解決できないことも出てきます。先生も教えてくれない。そうなると、どうしていいかわからなくなってしまいます。総合力のある人は、自分で調べることができるので、わざわざ私たちに聞きに来ない。

総合力を身につけるには、やはり難しい問題をたくさん解くこと、経験したことの無い問題を自分で考えることが必要。自分が知っている問題だけを解いていても、力はつきません。

親が自らを磨くことで子供も勉強するようになる

昨今、日本の子供たちの考える力が低下したといわれます。その原因は、親と子がいっしょにいる時間が少なくなったことではないかと思えます。1970年代と現在を比較すると、親が家にいる時間が短くなりました。

昔は、親が勉強やしつけなど基本的なことを子供に教えていた。ところが今は外に出て働いている人も多く、そうした時間が取れなくなってしまった。勉強の仕方は、高校に入ってから急に学ぶものではありません。家で親が本を読んでいれば子供も読む。逆に親がテレビを見ていれば、やっぱり子供もそうになってしまう。日本中の親が、子供一人ひとりをごんばって教えることが必要です。そうすれば日本の国力は上がるでしょう。

もう一つ、昔と変わったことは、勉強時間が少なくなったことです。テレビやゲームをする時間は有益でないことが多い。そういう時間をなくすと、家庭でもかなりのことができるはず。だからとテレビを見せない、ゲームは時間を決めて終わりにさせるなど、親が子供に時間をつくってあげるべきなんです。

同様に、親も無駄に時間を過ごしてはいけません。会社に入ったら、もう勉強しないというのではなくて、新聞を読むだけでも面白いことがいっぱいあるわけですから、そういう姿勢をちょっとでも見せる。そうすれば、子供たちも勉強するようになると思います。

東京大学には、高校生と親がいっしょに聞ける無料の講座があります。積極的に利用してほしいですね。そうした講座では、私でもなるほどと思うような興味深い話が聞けます。

親もそうした機会をとらえてブラッシュアップすることが大事。その姿勢は必ず子供に伝わります。子供に勉強の癖をつけさせるのは親の役目。親が勉強癖をつけさせなければ、子供は絶対にやりません。勉強ができないのは子供のせいではありません。ほとんどは親の責任なんです。

教師が面白いと思わない限り子供も面白いとは感じない

私は今、アルツハイマー病治療の研究をしています。アルツハイマー病は脳の中にアミロイドという物質がたまることによって、神経が死滅し、認知症（痴呆症）になる病気です。その治療のための食物ワクチンを作っています。食べると病気に対する抗体ができて、その抗体がアミロイドを取り除いていきます。これは面白いなあと思っていました。うまくいけばみんなの役に立ちますし、やっぱり何かの役に立てると思えば、意欲も出てくるんですね。

子供に意欲を出させるのは難しいことですが、まず教師が面白いと思わない限り、子供も面白いとは感じてくれません。自分が面白いと思っていることの面白さをいかに伝えるか。そこが教師のいちばん大事な仕事だと思います。

大学には興味深い研究が本当にたくさんあります。未知のものとの出会いの中から、自分のやりたいことを見つけてほしいというのが僕らの願いですね。自分で見つけることができれば、みんなけっこう一生懸命やるので、そんなに失敗しないはずですよ。

勉強すればするほど、それが人間の幅になっていくことは確かだと思います。勉強によって損をすることは絶対ないんです。

(談)

通信教育の資料をご請求いただいた方に学年に合わせた勉強に役立つ小冊子をさしあげます (広告主提供)



小学1・2年生コース
『子どもを伸ばす7つのおはなし』
「子どもの心を育むおはなし」など、学力に限らず教育全般のアドバイスを齋藤孝氏をはじめとした教育者からのインタビューで構成。



小学3～6年生コース
『小学生を勉強好きにする7つの方法』
育児や保育を研究対象としている東京大学大学院教育研究科・教育学部の汐見稔幸教授が、学びに興味を持たせる方法などに答える。



中学コース
『子どものやる気を引き出す15のヒント』
中学生になると自発的に勉強に取り組む姿勢が大切。子どもにとって重要な役割を担う家庭学習のあり方を15のヒントを通じて考えていく。



高校コース
『Z会だけが知っている! 大学ナマ事情』
東京大学・京都大学などに合格したZ会の先輩たちから寄せられた、キャンパス案内や入学前のイメージと現実の違いなど生きた大学情報を掲載。

資料請求はこちら▶▶

※広告主の資料請求申込みページへリンクします。

asahi.comに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
| [朝日新聞社から](#) | [サイトポリシー](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [リンク](#) | [広告掲載](#) | [お問い合わせ](#)・[ヘルプ](#) |

Copyright 2005 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.